

第〇学年 学級活動（3）指導案例（細案）

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校特別活動」を参照し、学級活動（3）の例を示します。

日時 令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時
対象 〇年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 題材（3）「（例）体験活動を学校生活につなごう」

学級活動（3）「イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」

題材及び「学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容を記述する。

【小学校】 ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館の活用

【中学校】 ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成

ウ 主体的な進路の選択と将来設計

2 題材について

（1）児童生徒の実態

児童生徒の学級生活や学級活動における実態などを記述する。

（2）題材選定の理由

題材が設定された背景や教師の指導観などを記述する。

3 評価規準

各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。題材ごとに設定するのではなく、内容のまとまりごとに評価できるように設定する。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
例：～理解している。 ～身に付けている。	例：～見いだしている。 ～実践している。	例：～図ろうとしている。 ～取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

事前、事後の活動を含む学習過程を工夫します。その際、日常生活における問題の原因や対処の方法についての話し合いを生かして、自己の課題の解決方法等を「意思決定」し、決めたことに粘り強く、自主的、実践的に取り組めるようにすることが大切です。

時間	ねらい・学習活動	○目指す児童生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	自主的態度
学校行事 始業式後	「一年後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・学校教育目標（キャリア教育目標）、学年目標から自分のこの1年間の目標を設定する。 ○活動 ・「キャリア・パスポート」に1年間の目標を記入する。	学校や学年教育目標を踏まえ、個人目標の設定方法を身に付けている。	1年間でなりたい自分を表現している。	自主的に「キャリア・パスポート」を活用して自己の学びを見通し、振り返ろうとしている。
学級活動	「4ヶ月後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・前回立てた1年間の目標から、1学期の目標を設定する。 ○個人での活動 ・キャリア・パスポートに1学期の目標を記入する。 ・1学期の目標を掲示する。	自分の1年間の目標を踏まえ、1学期の個人目標の設定方法を身に付けている。	自分の1学期の目標を表現している。	1学期の目標と職場体験を関連付けようとしている。
学校行事	「自分を知ろう」 ○ねらい ・職業適性検査を通して自分の特性を知る。 ○活動 ・職業適性検査を受ける。 ・職業と適正の関係を知る。	検査の結果を参考にし、自分の適性や興味を理解している。		自分の適性や興味から職場体験活動への見通しをもとうとしている。
学校行事	「体験先の職場を選択しよう」 ○ねらい ・根拠をもって体験する職場を選択する。 ○活動 ・自分の適性や興味を確認する。 ・働く意義を確認する。	働く意義や自分が社会で果たしたい役割を理解している。	働く意義や自分が社会で果たすべき役割について考え、中学校における職場体験活動で何を学びたいのかを、根拠をもって説明している。	
本時	「体験活動を学校生活につなごう」 ○ねらい ・職場体験活動で学んだことをまとめ、今後の学校生活に生かす。 ○活動 ・職場体験レポートをまとめ、担当教員よりコメントをもらう。		職場体験活動で学んだことを自己と関わらせながら「キャリア・パスポート」に表現している。	担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。
学級活動	「1学期を振り返ろう」 ○ねらい ・職場体験活動を含め、1学期の活動を振り返る。 ○活動（個人） ・1学期の活動についてまとめ、2学期の目標を考える。		職場体験活動を含めた1学期を振り返り、表現している。	1学期を振り返ることにより、2学期への見通しをもとうとしている。

「目指す児童生徒の姿」には、「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、事前・本時・事後の一連の活動について、評価規準を具体的に記述する。その際、事前・本時・事後の活動の中で、全ての評価の観点を適切に設定する。

※「4 指導と評価の計画」は、学級活動（2）の型でもよい。

5 本時について

(1) 本時のねらい (目指す児童生徒の姿)

「内容のまとまりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。
 自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかなど指導のねらいを端的に書く。

- (例) ・職場体験活動で学んだことを「キャリア・パスポート」に表現している。
 ・担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。

(2) 本時の展開

段階	児童生徒の活動	○目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉 ※指導上の留意点
導入 ○分	<p style="text-align: center;">児童生徒の活動、目指す児童生徒の姿、指導上の留意点の記入については学級活動(2)を参照する。</p> <p>つかむ</p> <p>1 職場体験活動を振り返ろう ・職場体験活動のしおりや「キャリア・パスポート」を読み返す。</p>	
展開 ○分	<p style="text-align: center;">職場体験活動を学校生活につなげよう。</p> <p>さぐる</p> <p>2 個人の活動 ・適性検査を基にした職場体験活動のねらいと、実際の職場体験活動の取組は合っていたかを振り返る。</p> <p>3 グループでの話し合い活動 ・実際の職場体験活動中に学んだこと、職場の方とのやりとりを振り返る。</p> <p>4 個人の活動 ・職場体験活動の感想をまとめる。</p> <p>見つける</p> <p>5 個人の活動 ・職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるかを考える。</p> <p>6 グループでの話し合い活動 ・応援シートを使いながら、職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるかを考える。</p> <p>決める</p> <p>7 個人の活動 ・担任のコメントや応援シートを参考に、これからの学校生活で伸ばしたい力を意思決定し、記録する。</p>	<p>※「キャリア・パスポート」を見直す。</p> <p>※「キャリア・パスポート」に記入する。 ○職場体験活動で学んだこと整理している。 【思考・判断・表現】 「キャリア・パスポート」 ※担任は机間指導しながら、自己理解、社会マナーやルール、進路決定や将来設計、役割等の視点からコメントする。</p> <p>※応援シートを使い、互いのよさやがんばりを相互評価する。</p> <p>○担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。 【主体的態度】 〈「キャリア・パスポート」・観察〉 ※「キャリア・パスポート」に記入する。</p>
終末 ○分	<p>8 振り返り ・体験活動と学校生活のつながりと「キャリア・パスポート」を作成することの意義を確認する。</p>	<p>※具体的な場面(学校行事や進路選択)を挙げ、児童生徒がイメージしやすいようにする。</p>

6 板書計画